

序

「ポーカス (POCUS) ? 何それ？」なんて言葉を聞かなくなって久しい。とは言え、ここ数年の話である。一方で世界に目を向けてみれば、2011年にThe New England Journal of Medicineという非常に有名な雑誌に総説として取り上げられ、その概念が世界中で共有されることで認知度が一気に高まった。さすが世界は広い！と言いたいところだが、米国ではなんと2001年に、救急超音波に関するガイドラインが発表されている。今からおよそ25年前の話である。まさに今この本を手にとっている皆さん（初期研修1年目の先生）が産声を上げた頃である。皆さんが医師を目指して日々成長している間に、米国救急医学会はこのガイドラインを3回も改訂しているのだ。

その一方で、本邦では2022年に、日本救急医学会が日本で初めてとなるPOCUSについての診療指針を発表している。そしてこの指針では、冒頭において「この指針をきっかけに、本邦の救急診療の現場で超音波検査が効果的に利用されることを願う」と締め括っている。本邦の救急診療の現場とは、すなわち皆さんのような初期研修医が活躍する現場である。

さあ大変!! 「ポーカス? 何それ?」なんて言っていられないはずである。 そうは言っても、たった2年間しかない初期研修で、学ぶべきことは年々増えている。そこにもう一つPOCUSが追加されるなんて、研修医の先生たちには同情を禁じ得ない。少しでも先生たちの負担を減らしたい! POCUSの知識もないけど時間もない先生たちにどうすれば……。幸い、ここ数年

で POCUS に関する書籍は驚くほどたくさん発刊されている。手技を含めてじっくり勉強したい人向けの POCUS 本はいくつもある。それに引き換え、本書では「救急研修する前にちょっと勉強しておきたい」、あるいは「救急研修中にふと疑問に思ったことの答えがすぐにほしい」または「救急研修後に知識の整理をしておきたい」という先生たちのご要望に応えられるようにしつつも、先生たちの貴重な時間を奪わないように質問回答形式で**わずか50問、厳選して作成した**。もちろん回答は POCUS を実臨床で役立てている若手から中堅のやり手の先生方をお願いしたので、読み応えも十分にあるはずである。一方で、初期研修医を直接指導することが多い後期研修医（専攻医）の先生は、**これら50問にはいつ聞かれてもすらっと答えられるようにしておきたいものである**。そうすれば、きっと後輩から羨望の眼差しで見られること間違いない。

本書は1日5問程度はさらっと読めてしまうので、2週間足らずで読破できるボリュームである。タイトルにあるように「最初の1か月で」は、やる気のある先生にとっては少し物足りないかもしれない。筆者としては本書を繰り返し読むことをお勧めするが、どうしてもという時は「POCUS, 瀬良」でネット検索すればいくつも良書がでてくるので、是非参考にしてほしい。

福井県立病院救命救急センター
瀬良 誠